新庄病院の現況

山形県立新庄病院
院　長　八戸　茂美

山形大学医学部および蔵王協議会の皆様には日頃よりご支援を賜り深く感謝申し上げます。

私は昭和60年に弘前大学を卒業するとすぐに山形大学第二内科に入局させていただき、同時に細菌学教室の大学院生としてご指導いただきましたので、とりわけ7期生の皆様には今も大変懇意にさせていただいております。

さて、当院は昭和20年に新庄町立病院として発足して以来、70年以上にわたり人口約8万人の最上二次医療圏の地域医療を担ってきた中核病院です。全国を上回るペースで進む少子・高齢化に伴う人口の減少と絶対的医師不足など、医療を取り巻く環境が県下で最も厳しい最上地域にあって、古くは東北大学、弘前大学、秋田大学、加えて今は山形大学からと、多くの医師派遣をいただき地域医療は支えられてきました。二次救急医療機関として年間約1万2千人の救急患者の受入れと最上地域唯一の分娩取扱い機関として周産期医療の中核を担うかたわら、「へき地医療拠点病院」として当院からも医師を派遣することで地域医療機関との連携強化に努めてきました。そして昨年、老朽化した当院の全面移転新築が決定したところです。その「病院改築整備基本構想」策定にあたっては山形大学根本病院長、医療政策学講座村上教授からも貴重なご意見をいただきました。引き続き本年は「基本計画」を策定します。早速県内外の先進病院への視察も始まり、改築に向けた職員の機運もいよいよ高まってきたところです。

病院運営は、今後も山形県病院事業中期経営計画に則り「質の高い医療の提供」、「人材の確保と育成」、「医療連携・機能分担の推進」、「経営の改善」の4つを柱として進めていきますが、とりわけ「人材の確保と育成」は明日の最上の地域医療の命運を分かつものだと思っております。そのために、これまで研修医確保のためのレジナビ参加、SNSによる情報発信、大勢の学生へのPR、当院を基幹施設とした総合診療専門医プログラムの申請、職員の専門資格取得と維持、職員総参画の病院運営を推進すべく職員の意識改革、等々に注力してきました。少しずつではありますが医師の間にも経営意識が芽生え、DPC研修会等への参加者も増えてきました。また、当院は「災害拠点病院」でもあります。全職員参加の大災害訓練は今年で11年を数え、地域住民の理解をいただくために始めた新庄病院健康まつりも3年目を迎えます。これらは職員の連帯感の醸成を感じる事柄でもあります。

そんな中で、山形大学の「広域連携臨床実習」で来られる学生の皆さんは実に一生懸命向学心を持って実習にあたってくれますし、なにより指導医のモチベーションも上がり職場も活気づくことと、毎回皆がとても楽しみにしています。この臨床実習により、多くの医学生の皆さんが県内各地の病院において研鑽を積み、本県を支える医師として活躍してくれることを期待しています。

私が赴任した平成初期、当時の新庄病院は研修医にもひときわ人気がある病院でしたが、平成16年新臨床研修医制度開始を境に常勤医師の減少、研修医の確保に苦労しているのが現状です。夢よ、もう一度。若い研修医が「この病院で働いてみたい」と渇望するような研修環境を作りあげること、そして病院機能の強化を図りながら住民の悲願でもある移転新築を推進することが私たちのビジョンです。どうぞこれからもよろしくお願い致します。